

## お礼のこたば —VSU Guest House の閉会宴にて—

高村奉樹

ビサヤ州立大学ミラン学長，サゴヤシシンポジウム組織委員会，そしてビサヤ大学フィリッピン根裁類研究・普及センターのみなさま，このたびはここレイテ島で第9回サゴヤシ国際シンポジウム，引き続いての現地見学について万全の準備のうえ，すばらしい運営のもとに開催されましたことを，参加者一同心よりお礼申し上げます。

フィリッピンの人々はもとより私たち日本人にとって，この島には第二次大戦の悲しい思い出があります。そのため率直に申せば，私は当初ここを訪れることを少し躊躇いたしました。しかし今回訪問しましたところ，みなさまの暖かいお心遣いと平和な島のたたずまいに迎えられ，いま私は心からシンポジウムに参加できてよかったと感謝しています。

サゴヤシの研究に携わる日本の研究者とその背景についてひとことお話しさせていただきます。今回お分かりのように岡崎教授をはじめ土壌学，作物学，社会経済学などの諸分野の研究者がサゴヤシの生育する諸地域の皆様と協力して研究の推進力となったことに，まず敬意を表したいと思います。と同時にこの機会に既に30年近く前，21世紀におけるサゴヤシ研究の重要性を強く認識されて，私財を投じてとくにJSPSを通じて研究者の養成と研究推進を熱心に奨励され，10年以上前に99歳にして去られた故長戸公先生のことを追憶し，改めて先生への感謝の気持ちを捧げたいと存じます。

40年以上前IRRIで私が研修員の時代には，専らコメの開発研究が推進されました。しかし研究所にいるフィリッピンの友人が，この国にはコメだけではなく多くの作物があるとキャッサバ，カモテ，プランテインなど根菜類の名前を挙げたことを記憶します。今回の見学によりましてフィリッピンに於ける多様で重要な作物と

しまして，私はそこにさらにサゴヤシを加えることの必要性を認識しました。今後フィリッピンにおきましてサゴヤシ研究と普及が一層進展するようお祈り致します。

最後に改めて本シンポジウムの運営委員長 Bacusmo教授はじめ Quevedo, Loreto教授に心からお礼を申し上げます。

皆さんありがとうございました。